

平成 28 年第 3 回 山武市学校のあり方検討委員会 会議録

1 日 時	平成 28 年 7 月 13 日(水) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 13 分
2 場 所	山武市役所 第 6 会議室
3 出席委員	16 名
4 欠席委員	4 名
5 会議内容	○山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）について (1)基本計画（案）作成までの経緯について (2)現在の取り組み状況 (3)その他（今後のスケジュール等について）
6 事務局説明者	教育総務課長 外

1 開会 午後 1 時 30 分

※開会にあたり教育長よりあいさつ。

教育長：本日は、山武市学校のあり方検討委員会ということで、皆様お忙しいところお集まりいただきましてまことにありがとうございます。

今回、検討委員会の委員の皆様も変更がございまして、この後、皆さんに委嘱をさせていただくわけですが、この検討委員会、平成 24 年から実は立ち上げがされておりまして、平成 26 年 3 月にこの検討委員会の皆様から、学校のあり方についての答申をいただきました。それをもとに、教育委員会でいろいろ検討を重ねてまいりまして、平成 27 年の 3 月には、基本方針として大きな枠での方向性を示させていただきました。それにつきましては、各学校その他で説明をさせていただいて、その内容をもとに、今年 2 月に、基本計画（案）として皆様にお示しをしました。資料にもあるかと思うのですが、これには具体的な学校統廃合に関する場所ですとか、時期ですとかを含めて、お示しをさせていただいたところがございます。

そのような中で、各地でこの基本計画につきまして説明をさせていただいているわけですが、やはり山武市全体を見ますと、それぞれの地域によってこの計画に対する反応というものもまちまちでございます。好意的に受けて、早く進めてもらいたいという地域もあれば、統廃合を受け入れられないというような地域も実際がございます。

教育委員会としては、このあり方検討委員会の皆様、この会にはさまざまな立場の方たちがご参加をいただいているところでございますので、そういった意見も踏まえまして、あり方検討委員会としてのご意見をまとめていただきたいと思っております。

また、この検討委員会では、その意見をまとめて、教育委員会にこの計画について意見を述べることができるということになっております。ぜひしっかりとご検討いただきまして、ご意見をお出しいただければと思います。

この計画自体は、基本的には山武市の子供たちの教育環境をどうしていくか、これは少子化が急激に進む中で、子供たちの数が半減しているという状況がございまして、そのような中で、どう環境を整えていくかということ議論のスタートにしておりますので、そういったところで我々は説明をしているわけなのですが、やはり地域にとっての学校の位置づけというものも大きくございまして、いろいろなご意見を伺っているところでございますが、そういったことも含めて、我々としては皆さんの意見をいただきながら検討してまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

新たに委嘱するメンバーの皆様方には、今までのその 24 年からやってきた流れというもの
がまだ十分には伝わっていないのかと思いますが、今回この今までの経緯等も含めてご説明を
させていただきます。しっかりと時間をとってご検討いただき、進めていただければと思い
ますので、ぜひよろしく願いいたします。本日はよろしく願いいたします。

3 委嘱状交付

事務局：委嘱状の交付ですが、本来であれば、嘉瀬教育長から委員の皆様お 1 人お 1 人に委嘱状を交
付すべきところではございますが、限られた時間の中でより多くのご意見をいただきたいと存
じますので、簡略化させていただきまして、あらかじめお手元に配付させていただいておりま
すので、ご確認願います。

なお、委員の皆様には、教育委員会が策定した学校の規模適正化・適正配置に関する計画の
推進に係る課題等につきまして、幅広い見地からご意見をいただきたいと考えておりますので、
お力添えをお願いいたします。

委嘱の期間は平成 30 年 3 月 31 日までとさせていただきます。

4 委員の紹介及び事務局職員の紹介について

※教育委員から順に、自己紹介形式で紹介を行った。

5 委員長、副委員長の選出について

※互選により、今関委員を委員長に、七井委員を副委員長に選出。

委員長：ただいまご推挙を賜りました蓮沼の今関と申します。この学校のあり方検討委員会は、平成
24 年 11 月 5 日に発足しまして、山武市の子供たちのことについて、さまざまな議論を重ねて
今日に至っているわけであります。

私どもこの会議に臨むにあたり、私自身が考えたことでありますけれども、子供たちのこの
地域の、山武市の子供たちの将来、それを決定づけていく、人をつくっていく、市民をつくっ
ていく大もとにある教育のあり方というものについては、これについて大変重たいものがある、
山武市を構成していく一番大切なものではないかなという思いがあり、この会を引き受けたわ
けであります。

委員の皆様も、初めての方もいらっしゃるかもしれませんが、これは私のほうからお願いで
あります。どうかその皆様が大人になられた、そのときに、学校というものがどのような
役割を果たして、私も含めてでありますけれども、一人前の人間になったか。これはもちろん
学校教育もありましょうし、家庭の中でもありましょうし、社会の中で研さんをされたとい
うこともあるかもしれませんが、しかし、大きな力を持っているものは学校教育である。それが最
も効率よく行われて今日の私たちがあるという原点ですね、そこをきっちり押さえて
いただくと、多分これからの新しい社会に向かって、そこで育っていく子供たちが、きっと将
来の山武市を輝かしい市にしてくれる、そういう思いと自信を持って当たっていただければ大
変ありがたい、そう思っているわけであります。

なかなか大変な問題を抱えているわけでありまして、1つ1つ克服して、未来の、将
来の新しい時代にどう備えるかということが問われている、そう思っております、この

会でさまざまな活発なご意見をいただければ大変ありがたいと思っているわけであります。

本日はご出席を賜りましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

副委員長：城西国際大学から参りました七井でございます。城西国際大学では経営情報学部の学部長と教務部長を務めております。

24年度からこの委員をさせていただいております。地域にある大学として、大変関心を持っております。この山武市様とは、看護学部が奨学金をいただくなどして、さんむ医療センターの看護師の人材養成も大学で担っております。福祉の学部もあり、理学療法学科もでき、地方の地域の高齢社会、少子高齢社会というところにおいては、福祉総合学部に幼稚園と保育園、それから、保育士の課程もございますので、密接にかかわっているという認識を持っております。

そういう中で、大学が地域の中でどのように貢献できるかということもあわせて考えてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

※議事に入る前に、事務局より会議録の公表について説明。

事務局：会議録の公表についてご説明をいたします。この学校のあり方に関する問題は、市民にとっても関心深いものであり、市として公表しなければいけないものだと思っております。

公表の方法としては、委員の発言を全て公表するわけではなく、意思形成の過程における審議、検討等に関する部分については非公開とし、公表する場合はご発言された委員の名前は伏せさせていただきたいと思っております。例えば、A委員、B委員というような形で公表したいと思っております。いずれにしても、公表する際は各委員にご確認をいただいてから公表させていただきます。なお、確認方法ですが、会議終了後、おおむね2週間程度お時間をいただき、事務局で会議録を作成いたします。作成後は各委員宅に確認用の会議録を送付させていただきますので、ご確認をいただいて、修正等がある場合はご連絡をいただきたいと思いますと思っております。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

委員長：ありがとうございます。

この会議は、もちろん公開しなければならないという原則があります。さまざまな機微に関する問題について、皆様からご意見をいただくということになりますので、委員の皆様は名称ではなく、形はA委員、B委員、事務局で、今ご説明がありましたようにいたすところでもあります。

そのような形で行うということについてご了承いただくことで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長：ありがとうございます。それでは、会議録については、事務局はそのような形で、ただいまのような形で、公表について手続をとってください。お願いいたします。

6 協議事項

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）について

(1)基本計画（案）作成までの経緯及び(2)現在の取り組み状況

委員長：それでは、会議に入ります。6、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）について、(1)基本計画（案）作成までの経緯、(2)現在の取り組み状況について、ご説明をお願いいたします。

事務局：それでは、次第の6、(1)基本計画（案）策定までの経緯と、(2)番、現在の取り組み状

況について、続けて説明をさせていただきます。資料は、本日お配りいたしました4ページからになります。学校の統廃合について、平成22年に議会から質問が出されたと書いてあります。こちら平成22年9月の議会に、将来を見据えた学校の統廃合の時期について、教育委員会で話し合っているのかというご質問がありました。それをきっかけとして検討が進められております。そして、平成24年11月5日に山武市学校のあり方検討委員会が設置されました。平成24年11月5日から平成26年3月19日まで、山武市学校のあり方検討委員会が設置されまして、教育委員会から山武市立小学校及び中学校の将来を展望した学校のあり方というものについて諮問をさせていただきました。あり方検討委員会では、会議を13回行っていただいております。その間に、行政視察1回、茨城県小美玉市教育委員会、学校視察1回、山武西小、豊岡小、松尾中、成東小、蓮沼中を視察していただいております。その後、市民、保護者等を対象にアンケートも実施していただきました。そして、平成26年3月19日に答申書をいただいております。その後、平成26年4月25日から平成27年3月20日までの間、教育委員会協議会で、答申内容の確認、検証、基本方針の素案の作成、基本方針素案に関する意見を聴く会の開催結果についてということで、会議を14回行い、検討、協議をいたしております。続いて、26年11月13日から27年3月26日、教育委員会協議会で検討している間、山武市学校のあり方検討委員会も会議を3回行っていただいております。内容については、基本方針素案についてと、基本方針素案の修正内容について、基本方針素案に関する意見を聴く会の開催結果についてということで、協議をしていただきました。5ページをお願いします。5ページの一番上には、先ほど申し上げました基本方針素案に関する意見を聴く会の開催状況です。3月7日、8日、15日と、3日間にわたって午前、午後6カ所で説明会をいたしました。合計146人の参加者でございました。続いて、平成27年4月から10月まで、こちらは市長部局との協議、調整をいたしております。その後、平成27年5月から12月まで、こちらでもう一度保護者への説明会を実施いたしました。先ほど申し上げました27年度3月に開催した意見を聴く会の参加者が146人と少数だったため、各小学校やこども園等の保護者を対象に、基本方針素案の内容についてもう一度説明会を開催し、意見交換をいたしました。この7カ月の間で26カ所を説明してまいりました。このときの参加者の合計数が1,044人でした。この方針の説明時にも、一部の地域では理解を得るのが難しい状況でした。

その後、平成27年7月2日、行政視察として茨城県行方市立玉造小学校に行つてまいりました。研修内容は、適正配置の進め方とスクールバスの状況等ということです。この行方市については、平成17年に市町村合併を行つております。小学校については18校ございました。計画的に学校の統廃合を進めているということで、平成24年、26年、また、平成28年についても学校の統廃合を進める計画でおります。

続いて、平成27年7月10日から11月25日までの間、教育委員会協議会で検討・協議して、会議は6回行っております。これは基本計画（案）策定にかかる年次計画及び優先順位の考え方等について検討いたしております。その結果、平成27年11月25日、教育委員会第11回定例会におきまして、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針素案を成案といたしました。

その後、平成27年12月16日、これは第12回の定例会におきまして、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）の最終協議を行いました。翌年の1月20日、教育委員会第1回の定例会におきまして、この基本計画（案）についての原案可決をいたしました。その内容について、1月22日、学校のあり方検討委員会の皆様に内容の確認をしていただき、意見交換を行いました。それでは、6ページをごらんください。平成28年2月6日と7日と21日の3日間にわたり、規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する意見を聴く会を開催い

たしました。こちらは中学校区単位で行ったわけですが、6カ所で133人と大分少ない人数でございました。このときの開催結果、意見については、7ページから10ページまでに添付させていただいております。意見といたしましては、特別に反対しているという意見は少なかったように思います。成東中学校では、防災面で成東中が成東東中に行った場合、津波とか、そういう安全面についてどうなのかなという質問とかがありました。また、全体を通すと、説明会の参加者が少ないから、もう一度やり直しをしたらどうなのかなという意見もございました。また、松尾中学校においては、松尾小と豊岡小の統合後、松尾小の新校舎建てかえに伴い、平成31年度から平成33年の間、松尾小の子供たちが松尾中に入る、そのときに、蓮沼中の統合もあって、人数がさらに増えてしまう、そういうことの課題が多いのではないかなという意見がございました。ですので、中学校の統合をもう少し遅らせたほうがいいのではないかなという意見がありました。10ページは、蓮沼中学校なのですが、蓮沼中学校の場合には、学校の教育問題とかではなくて、地域のこと、蓮沼地域に学校がなくなることによって、蓮沼地域に若い夫婦や子供がいなくなってしまうのではないかなということで、反対の意見が多かったように思われます。それでは、もう一度6ページに戻っていただけますでしょうか。平成28年3月4日、こちらについては、教育委員会の第2回の協議会で、規模適正化・適正配置基本計画（案）について、また、その3月10日には総合教育会議においても同じような会議をしております。平成28年3月28日、学校のあり方検討委員会の中では、この意見を聴く会の開催結果及び今後の進め方、考え方についての協議をいただいております。続いて、(2)現在の取り組み状況ということで、今お話ししました平成28年3月4日の教育委員会の第2回協議会、3月10日の総合教育会議、こちらで今後の進め方ということについて協議をしております。意見を聴く会の参加者が少なかったということで、基本計画を予定どおり進めていくために、もう一度小中学校の保護者に説明して、理解を得る必要があるということになりました。それを受けて、平成28年4月から6月までの間、今現在も行ってありますが、基本計画（案）に関する説明会というものを各小中学校で実施しております。実施の状況は、11ページをごらんください。11ページから13ページの2までございます。市内の小中学校19校ありますが、17校で説明を行いました。17校というのは蓮沼の小中学校が合同で開催をしております。松尾中学校なのですが、開催をしたのですけれども、保護者の方々があまり関心がなかったのでしょうか、説明会には出ていただけでなくて、説明会にはならなかったということで、17校、全体合わせて631人の方に参加をさせていただきました。会場での意見とか質問については、山武地域についてはある程度理解されていたと思われそうです。ご質問の内容が統合してからのスクールバスのこととか、制服のこととか、部活のこととかの質問がありました。成東地域においては、やはり成東中学校には災害のこと、安全面についてのご質問が多かったように思われます。また、12ページの蓮沼地域については、やはり地域を残したい、中学校がなくなってしまうと、子供たちがなくなってしまうというようなことがありました。また、小中一貫校とか、義務教育学校とかも考えてみたらいいのではないかなというお話もいただいております。魅力的な蓮沼中の教育というものを作って、よそから通いたいと思うような学校づくりをしてもらいたいなどというご意見もいただいております。今6月まで終わったわけなのですが、7月から8月上旬にかけて、こども園や保育園に説明会を実施させていただいております。今のところ3園を実施いたしまして、120名の参加をいただいております。その中でも、やはり蓮沼保育園は反対の方の意見が多かったということもございます。全体通すと、成東地域、また、蓮沼地域についてはまだまだご理解が得られてないのかなということで、実感しております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長：基本計画作成までの経緯及び現在の取り組み状況について事務局より説明がありました。

それでは、これから皆様にご意見、ご質問をいただきたいと思います。どなたかございましたらお受けをいたしたいと存じます。どうぞ、A委員。

A委員：ただいまの事務局からの説明で、今までの流れと経緯ということで説明がありまして、各説明会で出てきた意見というのを一覧に載せていただいてあったと思うのですが、この意見については今後、改めて検証あるいは検討を今後進めるのか、あるいは、もうこれらは意見としてだけ聞くだけで、特に問題視されないのか、その辺ちょっと確認したいのですが。

事務局：ご意見ありがとうございます。今回私どもが各地に出向いて説明している内容については、あくまでも基本計画の案としてお出しをして、それに対してさまざまなご意見をいただきながら、出てきた意見を教育委員会として検討しながら、取り入れなきゃいけない部分については、それを反映させていき、きちんとした計画に持っていきたいと考えています。

A委員：ありがとうございます。そういうことでしたら、やはりそれが理解できるような一言を載せていただければよいのかな。この資料だけですと、せっかく貴重な意見、これが実際に各説明会で出た意見というのが生の声だと思うのですが、そちらをただ意見の一覧で載せるのではなく、これらについて今後検討も踏まえ、計画案を進めていくという形で一言載せていただけると理解しやすかったと思います。

委員長：どうぞ。

事務局：ありがとうございます。ご指摘の点につきましては、今後十分注意をして進めたいと思います。ここにお載せしている意見というのは、各地区、地域、小集団の中での意見でございます。ですので、地域ごとに考え方、受けとめ方が違ってまいりますので、これに出てきている意見はその地域でのご意見として受けとめています。ですので、このあり方検討委員会の場では、それぞれから出てきている意見を、山武市として全体を俯瞰した中でその集約、合意を、皆さんの意見をまとめていただきたいというふうに考えておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

委員長：今、話がありましたように、これから皆様にご意見をいただくということになるわけでありまして、そこに入る前に、もう少し現在までの流れなどについて、ご質問とかご意見をもう1つ、2つぐらいいただいた後、個別の議論に入っていきたいと思っております。どなたかございますか。なかなか大変な問題を含んで、大きい問題でありますから、1つ1つというとなかなかないというふうになるのかもしれませんが、できたらもうお1人ぐらい、どうぞ、ご意見をいただきたいと思ひます。

B委員：松尾地区なのでございますけれども、松尾地区の場合は大平、松尾と両方ありまして、小学校は、それで、人数分布も非常に違ひまして、真ん中の松尾地区に統合されるというのはやむを得ないことだと思ひますので、それによっていろいろ学力の差だとか、小学校の途中経過が今まだかなりの人数差があるものですから、学力の差だとか、運動の差だとか、豊岡に至ってはもう1桁に近い状態で1クラスがやっておりますもので、それが統合されていきなりというところの手前の段階でもかなりアフターケアをしてもらって、同じ小学校3校の統合に向けての融和をつくってもらえるような活動をしていただきたいというのがまず1つ。あと、きょう来て初めての議論を聞いているものですから、個人的な意見が主体になってしまうので。

委員長：それで結構です。

B委員：ええ、もう1回帰ったときに、会合があったときはご説明して、私としてはこういう意見を言いました。もし間違っていたらまた訂正させていただきますというような場も持っていたかないといけないのかなというふうに思ひます。

委員長：ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。今その松尾のことについて言えば、松尾の3つの小学校を1つにするという話はありません。事務局、ちょっと説明してみたい

だけですか。

事務局：緑色のリーフレットをお持ちでしょうか。これあけていただきますと、真ん中のところに書いてあるのですが、こちらは統合前期計画といって、平成28年から37年までに計画している、今のところの案となっております。この統合の考え方としては、まず小学校というのは、先ほど豊岡小学校ありましたが、複式学級、2年生と3年生が1つのクラスになってしまっている。先生が1人で2つの学年を見ている、そういうようなケースが見られます。そういう複式学級の解消をまず優先して考えております。中学校については、単学級の解消、蓮沼中学校の場合には、1年、2年、3年と、全て単学級になっております。その単学級の解消と、部活動の活性化、教員配置の充実とかを念頭に置いて改善を図っていくという基本的な考え方を持って、こちらの統廃合というものを考えております。スケジュールなのですが、一番上にありますのが豊岡小学校と松尾小学校の統合というのをまず考えております。これは豊岡小学校が複式学級になっているので、それを解消するために統合ということを考えております。平成31年度に新しい小学校を開校するという考えです。松尾小学校の中に豊岡小学校が入るのではなく、2つの学校が統合して新しい学校をつくる、学校の名前もみんなで考えていきたいと思います。小学校ですから制服はありませんが、体操服等についてもみんなで考えていきたいと思いますという計画になっております。続いて、②番、日向小学校と山武西小学校の統合というのも、平成33年度には山武西小学校の複式学級が見込まれてしまいます。その複式学級を解消するために、日向小学校との統合を考えております。こちらは平成33年度に新しい小学校を開校する予定でございます。③番は、山武中学校と山武南中学校の統合です。こちらは山武南中学校の単学級を解消するために2校で統合いたします。新しい中学校の開校の時期は平成31年度です。④番、蓮沼中学校と松尾中学校の統合は、現在もう蓮沼中学校が単学級になっておりますので、平成32年度に新しい中学校を開校するという事で検討しております。⑤番です。成東中学校と成東東中学校の統合です。こちらは成東中学校の校舎が50年以上経っているということで、老朽化を解消するために2校の統合を考えております。平成35年度に新しい中学校を開校するという検討をしております。ここに入っていない小学校については、右下のほうに後期計画があります。これは平成38年度以降に計画するものなのですが、平成36年度にもう一度児童数の推移や校舎の老朽化、そういう状況をもう一度検討します。そのときに、小学校について複式学級が見込まれる、また、校舎が老朽化してしまう、そういうようなものが見られた場合には、もう一度この統合というものを検討していくという形になっております。

委員長：ご苦労さまです。ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたように、小学校については、豊岡小と松尾小、日向小と山武西小、中学校は、山武中と山武南中、蓮沼中と松尾中、それに、成東中と成東東中で、この統合でどうでしょうかということで、説明会を行っているというところであります。松尾の場合、考え方としては、大平はそこに入っておりません。例えば、蓮沼でも松尾でも、後期計画に松尾と蓮沼がありますけれども、これは今、ご理解していただきたいのは、それぞれが複式になってしまったというようなことになるとすれば考えましょうというところで協議はとめてあります。ただいま皆様からご意見をいただきたいのは、それでは、個別の問題に入っていきますでしょうか。この中で、豊岡小と松尾小、それに、日向小と山武西小、それと、山武中と山武南中の統合については、保護者の皆様、地域の皆様の中でコンセンサスが得られていると理解をしてよろしいでしょうか。事務局にお尋ねをいたしますけれども。

事務局：説明会での状況、意見とかを聞きますと、統合そのものに反対しているというものはあまりなかったように思われます。

委員長：ただいま事務局からご説明がありました、松尾小学校と豊岡小学校について、地域の皆さん

の中でそう意見の相違はないというようなことですが、そのことについてご意見があるというようなことはありますか。

B委員：交通の手段だとか、いろいろそういう問題はあるのですが、今のままではいけないという意見もありましょうし、やはり高齢の年代ぐらいになりますと、どうしても地域に愛着がありますので、最後の1人まではという気持ちは誰しもみんな持っております。若い保護者は、やはりそういう人数のところで学ばせたい。それで、みんな大勢のところからスタートしたいという気持ちはあるのですが、今こういう物騒な時代もありますもので、通うことで、もし通学バスに乗れなかったとき、今中学校も同じなんですけれども、大体車で個別に送り迎えをしたりして、自転車だとみんなが注意するように、なるべくはしているのですが、防犯カメラがあるわけでもないものですから、そういう面でもちょっと、そういう防犯の面もやはり考えていただきたいというのも現状だと思います。

委員長：ありがとうございます。統合については、この2の統合準備専門部会という委員会ができて、そこで総務部会とか、学校運営部会とか、PTA、通学部会とか、施設整備検討検証部会とかという名前の委員会ができて、そこでもって地域の皆さんで話し合いをして、つくっていくというような手続を行うということで考えております。例えば、防犯灯が少ないというようなことについては、そのときにご意見をいただいて、皆さんが満足していけるような形で事業が行われていくというふうに理解をさせていただいて結構であります。

C委員：私の周りでは、いつやるんだと、早くしろというのが、しか聞いていません。

委員長：D委員、いかがですか。

D委員：私もこの会議は初めてなので、今までの経過、経緯といいますか、そういうところはよく理解できていないところです。統合に関して、各地域で説明会なり、開催されておるかと思えますけれども、学校の統合については、これは将来的に子供の数が少なくなるということで、やむを得ない状況であるかと思えます。ちょうどC委員からお話あったとおり、そういった意見が多いということなので、私も学校から子供が離れているものですから、今まであまり関心がなかったというのが実情なんですけれども、いろいろこの件に関して、地域から特段意見が出されているということはないように思われます。

委員長：ありがとうございます。

E委員：委員長、いいですか。

委員長：どうぞ。

E委員：この1番の豊岡小と松尾小学校の統合ということですが、かねてから大平小も大平地区の皆様からも一緒に統合しないのかというご意見を聞いていますので、そして、また、大平小学校が果たして38年度以降まで校舎が手を入れずに持つかという問題も大きくあると思います。その点を考えたときに、今この計画を、新たに松尾小学校を建ててという動きは、私としてはどうなのかなという、非常に将来的な不安を抱えるままこの案をスケジュールどおりに行うということについて、1つだけ意見を言いたいと思いますけれども、豊岡小、松尾小学校を統合し、そして、松尾中の中に仮設校舎をつくる、そして、スクールバスを配置してという、そういう面ではいい案に感じますが、よく考えますと、一旦つくったものをまた壊すわけですね。それで、豊岡小はまつおこども園にするということですが、私としては、それよりは、豊岡小であるならば、全体的な統廃合の姿が見えてくるまで、松尾小と豊岡小は、豊岡小を使っていただいて、それで、人数的にも何とかやりくり、クラス的にできるのであれば、豊岡小を使っていただきたいなというふうに思うのです。そうすれば、松尾中の中につくる仮設の部分のお金はかからないわけですし、また、その後の後期計画に向けての中で、蓮沼小がどのような形になるかというのは、それは一度置いておいたとしても、大平小の

老朽化を見ますと、この計画よりも早く着手していかなければならないのではないかなというふうに思いますので、ぜひその点をご意見として申し上げたいと思います。

委員長：私のほうから確認をさせていただきます。豊岡小と松尾小と、そのときに、大平小学校も一緒にということなのでしょうか。そここのところ確認をさせていただいて。

E委員：地元の、かつてPTA会長をされた数人の方とですけども、お話ししたときに、なぜ松尾は早く松尾中の中にも入って、皆さん松尾中は大変大きい学校で、立派で、耐震化も十分で、その中で、子供たちが入れるというのをよくご存じで、なぜいつまでも一緒にならないんだということと言われました。そして、大平小も当然この中では一緒になるものというふうに認識が大変強いんですね。それなので、できれば大平小、豊岡小、松尾小という形で計画を、案を練り直していただいたほうがいいのでしょうかけれども、この計画のスケジュールで今はいつているので、これに対して意見をくださいというふうになると、私としてはそういう言い方になるのかなと思います。地元の意見はそういう意見が強かったですね。

委員長：ありがとうございます。事務局のほうで、そのことについてコメントをいただきたいと存じます。

事務局：今、おっしゃられたように、松尾中の規模としては、3校を入れることは可能です。大きき的には、恐らく。ですけども、松尾地区だけじゃなくて、全体を考えてみたときに、将来どこの学校も人数が少なくなってくる。そういったときに、今回蓮沼小と大平小は後期に回っていますが、それ以降の人数の推移を見ていったときに、もし仮に大平小学校を旧松尾地区でまとめてしまうと、蓮沼小学校が最後に単独で残ってしまいます。そうすると、蓮沼がさらに少なくなってきたときに、どうなるだろうと検討すると、単独での運営が困難な状況にもなったときには、松尾まで行かなきゃいけなくなってしまいます。大平小が先に松尾に行くとすると、小学校の学区の大きさ、通学距離から考えると、中学生でしたらまだ成長段階の関係で別ですけども、小学生が松尾まで行くというのはかなり無理があるだろうという考えがベースにあります。ですので、しばらくは選択の幅を広げておくぎりぎりのところまではこの状況のまま様子を見ていこうということで、大平、蓮沼地区はそれぞれ後期計画に回し、複式学級化を基準の1つとして捉えているというふうに我々は考えています。ですので、今この計画の中で大平小をということはなかなか考えにくいのかなというふうには捉えています。

E委員：よろしいでしょうか。

委員長：どうぞ。

E委員：以前から、このさまざま資料を見てきたわけですけども、子供の数の推移、これについては、申しわけないのですが、中学校区で小学校1つ、中学校1つという時期が必ず来るというのが、数字的には見えてしまうんですね。ただ単に、子供のことで、数字で片づけることはなかなかできません。それはもう承知ですけども、じゃあ、果たして子供がこれからも、蓮沼の子供たちのことは十分ありますけれども、スクールバスが出るということについての考え方ではなくて、徒歩ということなのか、枠といいますかね、学校区のあり方を、では、教育委員会としてはどのように考えていらっしゃるのか、そこら辺が私も理解ができませんと、なかなかそういった意見も、このとおりに進めていくということであれば、松尾小と豊岡小でまずやるんだということであれば、それはもう仕方がないことでありますけれども、そういった意見はありますので、そういった意見に対して、今おっしゃったような、子供の距離を考えた場合に、それは当然なことではありますが、それを蓮沼の子供たちが犠牲とか、そういう観点ではなくて、よりよい環境の中で勉強させるということを軸にしながら、さまざまな面を考えていただけたらいいなと思うのですが、それにつきましては、意見は尽きませんが、教育委員会としての、今後子供が少なくなっても、そういう学校区という問題をどう捉えてい

くのかということをもし今考えがあるのであれば教えていただきたいと思います。

委員長：ありがとうございます。小学校の、私は実はこういうふうを考えているのです。小学校の問題はずっと先のことになるわけでありませけれども、地域社会、つまり、コミュニティというものをどういうふうに考えるかという問題が小学校の統合についてはかかってくるというふうに思っています。私の個人的な意見を申し上げれば、ご維新があつて、あれは明治5年でしたか、今の小学校学区というのを全部日本中につくりませよ。あの広さというのは全く見事なものだったという、当時、人々が顔を見合せて、歩いて、共同生活を行える広さをうまく調節してそれぞれの枠組みを決めていった。その枠組みに基づいて私たちは地域社会というものをつくって今日まできているわけでありませ。過疎化が進行していくときに、コミュニティと、それから、学区という問題についてどういうふうに考えるかということが難しい地域の中での話し合いとかというようなものが当然絡んでくるというふうに思ひませ。コミュニティについて言えば、大体のところを祭りを1つにしていたり、お寺が2つか3つぐらいあつて、その地域の中でその地域を統合していく仕事があつたりというようなことで地域ができ上がっているわけだ。それが小学校3つも統合したならば、全くその地域というものがお互いにみんなで話し合いながら、顔を見合わせながら、おはよう、こんにちはと言ひながらその地域をつくっていくという、広さというんでしょか、それはかなりよく議論しなければならぬ問題があるのではないかなというふうに思ひませ。私が余計なことを言つても仕方ありません。教育委員会の中で、今E委員のほうからお話がありましたことについては、さまざまな角度からご議論をいただくということによろしいでしょか。

E委員：はい。

委員長：そのような形で私のほうから教育委員会にお願いをいたしておきませ。何かまだご意見がござひませでしょか。よろしいでしょか。どうぞ。

事務局：学区の考え方なのですが、この基本計画（案）冊子になつたものの中に、色分けした図が載せてあると思ひませ。これが将来的に、近い将来ということですがけれども、こういう区割り、山武市内全体を眺めたときに、バランスからいくとこのような分け方になるんだらうなという。基本的にシミュレーションした中では、こういう色分けをした学区割で基本的には考えております。中学校が7ページのこの3色のこういう形です。その中から今回お示しした部分を抜き出して出しています。

委員長：よろしいでしょか。委員の皆さんにお尋ねをいたしたいと思ひませ。これから私のほうから大変重たい問題を提示してご議論いただくということになりますから、休憩を挟みましょか。

休憩 午後2時45分から
午後2時50分まで

委員長：それでは会議を始めさせていただきます。先ほど申し上げました、教育委員会が地域説明会をして、なかなか困難なご意見をいただいたところについて、ただいまからその内容について詳しくご説明をいただきます。そのことについて、あり方検討委員会としてどうするかというような観点から、皆様からご意見をいただきます。それでは、まず成東中学校と成東東中学校の統合について説明会を開いた、そのことについて、もう少し詳しくご説明を事務局よりお願いをいたします。

事務局：先ほどもちよつと説明をさせていただきました、資料の11ページ、もう一度見ていただけますでしょか。成東地域として5番の成東小、そして、7番の成東中というものがあひませ。

ここに書かれていることが主なことなのですが、災害のこと、安全面については大分心配をされておりました。成東の保護者の方は、生徒数から見ればもう統合はやむなしかなと思っています。中学校においては、統合するころにはもう子供さんが卒業してしまうので、後のことを思えば災害面がとて心配だというお話でした。また、校舎がすごく古く、廊下とかも、配管がむき出しになっているとか、そういうような状況の話もされました。それと、保護者の方からだけではなくて、ほかの地域の方々もいらっしゃって、その中では、やはり成東中学校というのが市の中の中心にあるということで、コミュニティの場が遠ざかってしまう、成東東中学校までおりるといふことの、反対の意見が多かったように思います。それと、成東東中なのですけれども、逆に成東東中は13ページなのですが、統合して、成東東中は特に変わりがなく、場所も同じところを使いますし、それほど反対の意見はございませんでした。中には、成東中と成東東中をわざわざ統合しなくてもいいでしょうと。成東中を新しく建設したらどうなのという、統合しないでそのまま地域のことを考えて、その場所に中学校を建ててほしいという、統合そのものに反対の意見の方もいらっしゃいました。

委員長：私のほうから少し具体的に事務局にご質問いたします。成東東中と成東中を統合した場合の生徒数はどのぐらいになりますか。適正規模を超えるようなことはないですね。

事務局：平成35年度で446人です。

委員長：446人という規模は多過ぎて困るということはないですね。なぜ私がそんなことをお聞きしたかと申しますと、かつて東金市で大きな中学校をつくって、動かなくなってしまったというようなことがありますので。どうぞ、事務局。

事務局：ご指摘のとおり、リーフレットの一番下、⑤のところをごらんいただければと思うのですが、成東中と成東東中の統合ということで、35年のシミュレーションがここに書かれています。ご指摘の学級数でございますが、1学年4クラスということですので、特段問題のあるクラス数ではないというような判断でございます。

委員長：中学校の規模とすれば、むしろ好ましい規模というふうに理解をしてよろしいですね。それでは、委員の皆様からご意見を、この成東中と成東東中の統合について、ただいま事務局からご説明がありました、保護者の皆さんの中からはなかなか難しいというようなご意見があったということをお聞きしました。このことについて、皆様からご意見をいただきたいと思っております。私のほうから指名をさせていただいてよろしいでしょうか。F委員、このこと問題についてどのようなお考えをお持ちでしょうか、ご意見をいただけたら。

F委員：この成東東中と成東中の統廃合につきましては、もう本当に子供が少なくなって、1つになるというのは皆さん心の中に保護者として一番身近に捉えていることなのですが、成東中の方のご意見で、統合があつて、また新しい校舎を建てるというお話が出ているようなので、すけれども、市で予算を組めればやってもいいと思います。でも、子供が少なくて、10年後、20年後と先を見通したときに、大きな予算をかけて建てることによって、その建物が今後、生かされるようなことであればいいのですけれども、どこかやはり2つが統合するというところで、いろいろなご意見も出ますけれども、1つに新校舎、校舎の新しい成東東中学校に統合するとすると、成東中の方のバックアップが必要になると思います。スクールバスを充実させるとか、もちろん部活動の話が出れば、もうすこし細かく砕いていって、部活動にもきちんと支障を来さないような体制を整えてあげるとか、成東中学校側の気持ちになって、成東東中はさほど変わらないという体制ができていくわけですが、前向きに考えていいかなと思っています。

委員長：大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。G委員、何かご意見をいただけたらありがたいと思います。

G委員：確かに、今おっしゃったように、成東東中自体が昔の旧町村が3つ重なって1つになったことがあるのです。これを1つにするだけでも大変だったのですけれども、今、成東中の皆さん方がどのように考えているのか、今の位置から外れると、その外れるのも下がってくるという、その気持ちがどうも抵抗があるような、地区の方とちょっとお話ししたときにありました。ですから、成東東中のところまでおりてくると、何かそういうような感じが非常に強く感じられましたので、早いか遅いかになると思うのですけれども、財政的、それから、人口の減少、そして、今、我々が言っていることは、過去の人間になってしまいます。もう10年たつとその中学生が20歳近くになってくるので、立派な成人になってくるのですね。だから、そういう方たちのためにも、いい学校としてでき上がってもらえるようにしたほうがいいと、それには適正数というのが必要であるから、やはりこういう時期、時代になってくるのではないかと私は感じられます。

委員長：ありがとうございます。

G委員：統合して1つの成東中学校ですか、できたらよろしいかなと、私としては考えております。

委員長：ありがとうございます。もう1人この問題についてどなたかご意見をいただきたいと思えますけれども、私のほうから、それでは、ご指名させていただいて、H委員、大変恐縮ですがけれども、この問題についてどのようなご意見がおありでしょうか。いただけたら大変ありがたいと思えます。

H委員：私は成東地区の方の意見を伺ったことはないのですが、先ほど豊岡小と松尾小の統合の話があって、私も何度か、小学校での説明会ですとか、中学校の説明会に参加させてもらったときに感じたのは、松尾小と豊岡小、統合します。松尾小に豊岡小の子たちが来るのは歓迎です。けれども、松尾小の子が、じゃあ、豊岡小を主とした学校で使いましょうといったときに、松尾の人は反対だと思われま。先ほど言われたとおり、くだっていくというイメージなので、抵抗感がある。特に私が住んでいる地区は地元の意識が非常に強くて、例えば、私子供は今もういませんけれども、子供たちが積極的に挨拶をしてきてくれたりして、非常に環境のいい地区なのです。子供を伸び伸びと育てる環境にはいい地区だとは思いますが、どうしても中心地区に住まわれている方は、おりていく、下っていくというイメージなので、やはり成東の問題としても、東に行くとか何か下っていくという感じがあって、成東地区の中心の方は抵抗があるのではないかなと感じます。

委員長：ありがとうございます。私も、やはり地域性というのを感じています。でも、多分その地域性というのは、考え方によってはとても人格の形成にプラスになっていく、つまり、私どもは海辺に住んでいます。今おっしゃった人たちだと、生活態様が違うじゃないですか。でも、そういう人たちと会って話をする、それによって、新しい人々との発見というのでしょうか、考え方の違いを見つけ出して、それがプラスに働いていくということはたくさんあるのですよね。子供でも多分そういうことはあるのではないかと。どっちがプラスになって、どっちがマイナスというようなことはないのでしょうか。例えば、成東東中と成東中の場合は、そういうものが混然とある種のカオス状態になることによって、新しい思いが醸成されていくというようなことも多分あるのだろうかということ私には考えております。もう1人、この問題についてご意見をいただいて、I委員、ご意見をいただけたら大変ありがたいと思えます。

I委員：実は個人的なことになるのですが、家が成東東中のそばにありまして、体育祭とか、部活の送り迎えのとき、車が、特に体育祭なのですが、道路にたくさん止まるのですね。ですので、やはり一緒になるのはいろいろな事情によっていいのですけれども、駐車場の問題とか、車がどうしても、あまり周りが広い道路ではないので、その周りの方の車の問題とか、そういうことも考えなくてはいけないことかなと思えます。やはり人数が多くなるということは保護者の

方がまた多くいらっしゃるので、駐車場のこととか、そういうことも考えていただけたらなと思います。

委員長：ありがとうございます。それでは、今度は蓮沼の問題に移りたいと思います。事務局で蓮沼のことについてももう少し詳細なご説明をいただけたら大変ありがたいと思います。

事務局：蓮沼小学校で行ったとき、また、蓮沼保育園で行ったとき、両日とも同じような方がいらっしゃいました。蓮沼保育園では、保育園のお子さんを持つ保護者だけという方は2人か3人だったと思います。小学校も保育園も同じような意見をいただきました。説明会に参加した方の、ほとんどが反対をされております。その理由として、蓮沼の人たちは、蓮沼のことがすごく好きなのです。子育ての環境がすごくいいと、地域みんなで子育てをしている、そういうような環境であるということで、都会から見えている方とか、蓮沼ではないようなところから来ている方たちが、安心して子育てができる、そういうような思いの中から、反対というか、松尾の中学校のほうに行くという不安とか、いろいろなことがあって反対をされているんじゃないかなと思われるような内容でした。学校の子供たちが少なくなるので、教育環境をよくするということについての議論というよりは、子育ての環境、地域のコミュニティ、そういうところの不安があるように思われました。

委員長：ありがとうございます。それでは、J委員、この問題についてどのようにお考えかご意見をいただけたら大変ありがたいと思います。

J委員：勉強会をやられているというお話も多々聞いております。また、市に対してアンケートを作成中だというお話もいろいろ伺っています。恐れていることが、学校の保護者間で、賛成派、反対派が敵対しないかどうか心配です。

委員長：ありがとうございます。率直なご意見をいただきましてありがとうございます。A委員、お願いをいたします。

A委員：昔から中学校はあって当たり前、何かの行事があってその目印にしたりとか、中学校の周りで何かやるというのは日常的なことの中で地域住民は生活しております。それがなくなるということはまた1つ寂しい部分でもありますし、また、逆になくなった後の心配もあるのも事実です。なくなった後どうなるのかなど。何か新しいものができるのかなど。そちらの関心もあるのは事実です。それとは別に、いろいろお話を聞く機会がありまして、直接的にはちょっと意見を今までは述べる機会がございましたので、客観的に聞いていましたけれども、1つは部活なのですね。心配しているのは部活を心配している部分があります。具体的に言いますと、男子のバレー部なのですけども、蓮沼中学校は一種独特でして、地域的に部活として盛んなのがバレーボール、中でも男子のほうが目立つようにずっとやられていまして、過去においても県での好成績を残している事実があります。親にしてみたら、やはりその時期に一生懸命やっていたスポーツ、あるいは、部活で、またその下の子、弟や妹が同じ思いをしたいという願望があれば、それはかなえてやりたいというのが親心だと思います。蓮沼からすれば、昔から合併前から1校1校なので、小学校はそのままエスカレーターで中学校に上がる。他地区との接触がほとんどない。ほとんどないというか、ない状態で今まで来ていますので、それがやはり中学校でどこかの地区と一緒にするという恐怖感というのはあるのだと思います。そういうのは表に出ないまでも、潜在的に持っている方々が多いのは事実だと思います。なので、統合するものがだめとかいいとかという議論よりも、現実的に考えると、自治会の経営的な部分も含めて、もう統合に向けて何かをしなくてはいけない時期なのは事実だと思います。ただ、そのやり方がやはり、ちょっと疑問に感じているのは、蓮沼地区が松尾地区、松尾中と一緒にするというのは、例えば、選択肢として、東中のほうへ行く流れのほうなのですね。もともと蓮沼中の生徒は人数が少ないわけですから、そういう選択肢はなかったのかなという気はして

います。

委員長：ありがとうございます。今お話のあった、これは前回だったかな、議論でその辺のところはもっと弾力的にというような意見を、つまり、松尾中や成東東中とかはもっと弾力的にというような意見が出ていたような気がしました。K委員、大変恐縮ですけれども、この統合の問題について、この会としてどのような形をとるかというようなことについてご意見をいただけたら大変ありがたいと思います。

K委員：今までは自分の地域しかあまり考えていませんでした。学校で説明会を受けてもこの地域のためにどうしたらいいかというようなことをよく考えていました。しかし、この会に出まして、蓮沼小、蓮沼中とか、ほかの地域でどういう問題が起きているかというのを初めて聞きまして、驚いていました。よく思うことは、私が心がけていることは、親のエゴを持たずに子供のために考えてほしいというのがあります。今の話の中で、地元愛というのは大事だとは思いますが、結局は教育委員会というのは子供のためですよね。子供のためにどうしたらいいかというのをよく考えてもらいたいというのがまず私の考えなのです。それと、あと、スクールバスの件もこちらには書いているのですが、中学校で部活動をやっている子、あと、そのまま帰宅する子、学校終わって帰宅する子の時間がばらばら、部活動によっても時間がばらばらですね。それに対して対応してくれるのかということなのです。私の住んでいるところは中学校へはそんなに遠くはないのですが、仮に離れたところの子たちというのは、丘陵地帯で、小高い山を越えて、道路をぐるっと回って行かなきゃならない。また、交通量も多いのです。道が狭いうえに交通量が多いので、うちの子供たちからも話を聞くのですけれども、かなり荒い運転をしている方が多いそうです。教育委員会とかにも頼んで、いろいろやったのですけれども、なかなかうまくいかず、長いこと見てやらなきゃいけないというのもあったのですけれども、この機にそういうところも1回見直してほしいと。蓮沼のほうも、広い通りもあるんですけれども、一歩入れば細いですよね。また、周りにあまり民家がないところもあるし、ちょっと不審者があらわれそうな地域も多い。まずそういうところから重点的に話ししていったほうがいいのではないかなと。あともう1つなのですけれども、この委員会の件ですね、例えば、統合した後に約小学校6校、中学校6校ですよね。そこの地域、例えば、日向、山武地区の山武西小と日向小、山武中、山武南中の4校一緒でもいいのですけれども、誰か代表をとって出すということは、ここに出てもらおうということは難しいのでしょうか。この選抜されたやり方というのはよくわからないのですけれども、私は市民のほうから選抜されてきましたけれども、たまたまこの地域に入っているからこの地域のことは言えますけれども、ほかの地域は、よくわかりません。学校の位置すらわかりません。そういうのをこの会議でこうやって質問されても、こうした方がいいという言い方はできないと思うのです。であれば、その地域の代表者を呼んで、意見を言ってもらったほうがわかりやすいのではないかと。例えば、蓮沼中学校、成東地区ですね、成東中学校のPTAの代表の方も来ていますけれども、その方、ほかの方もいろいろ言うことによって、私はそっこのほうを知らなかったら新たな発見がある。ああ、こういうこともあるんだと、そういうのもいろいろと話し合いのもとになるのではないかとということで、根本から、今からは難しいと思いますけれども、少し検討していただいて、その地域のPTAの代表者を選抜してもらいたいなど。それと、やはり最終的には親のエゴを捨てて子供たちのことを少し考えてほしいですね。地元愛というのはすごく大事ですけれども、第一に考えるのはやはり子供だと思えるのです。だから、もう少し子供たちのためにこうしたほうがいいのではないかと話し合いを持ってもらいたいと思います。

委員長：ありがとうございます。もうお1人、2人ご意見をいただきたいと思います。L委員、すみません、この問題についてご意見をいただけたら大変ありがたいと思います。

L委員：私個人としては、蓮沼小学校の地域の人がこの統合についてすごく関心を持っていることに、驚きました。地元ではあまりこういった保護者たちの意見を聞くことはありませんし、興味も薄そうな感じですが、でも、当の子供たちは実際にどう思っているのかなというのを、今いろいろ皆さんのお話を聞いて思いました。どことこの地域が一緒になって、今度中学校がこうなるんだよというのを、子供自身からの意見を聞いたことなかったのが、実際にこういうふうに通うようになったら子供はどう思うのかなというのを今ちょっと思いました。

委員長：ありがとうございます。子供たちは、こういう問題についてどんなふうに考えているというふうな、このことについてちょっとこう、ご意見みたいなのをいただけたら大変ありがたいと思います。

C委員：とても大切な視点だと思います。前に1回その件について、発言させていただいたと思うんですけども、子供はその環境が全てなんですよね。ですので、たくさん友達、人数がいようが、少なからうが、その環境で適応していますので、いい悪いはない、それが最高なのです。ただ、それが変わるとなると多分不安もあると思いますけれども、それは幼稚園から小学校、中学、その都度経験していますのでね、最初はこちらごちゃごちゃしますが、すぐ友達をつくってまとまってくる。子供というのはものすごく適応力ありますので、子供にこの問題を聞いてもわからないと思います。なので、それを考えてあげるのは私たちの役目であると思います。

委員長：今そのお話をいただいたときに、子供はどう考えているかな、第一感としてはとても不安を持つだろうな、でも、新しい冒険も始まるかなというようなこともありますし、人が一人として育っていくときに、私たちがどんなような形で友達を獲得していくかというような、それは人によってさまざまなことがあるでしょう。例えば、仕事の中で探したり、それは幼稚園のときに親しくなった人たちと生涯いく、一番最後に高校を出たときの友達、大学を出たときの友達、いろいろな形でもって人と人が交じり合っていくわけですが、そういう中で、生涯の友達を見つけるというようなことができるという、その幅が広がるというようなことから言えば、たくさんの人たちと接触するというのは決して悪いことではないかもしれないというような、C委員さん流に言えば、私たちがどう用意するかというようなことも多分とても大切なことなのかな。このことについてはなかなか心理学者でもないとしても解明できないような問題でありますから、恐縮ですが、ご意見いただけたら大変ありがたいと思います。

J委員：私の子供がまさに今5年生になっています。子供に聞くと、まず子供は全然そういう何も考えもなくて、距離が遠くなるので、まず新しい自転車を買ってくれと、そういったことをまず考えてきます。それに、自分の子供は走るのが好きなので、陸上部があるのかと、そういった、何を自分がやりたいかというのをその中学校でまず求めてきています。まず、子供は自分が行った先で何ができるのかなという、そういったものを学校が新しく出来たときに受けられる受け皿、部活が一番、部活が好きな子がやりたい部活があれば一番その子にとって伸びるし、また、人が多くなれば子供は大きな森で育つほうがよりよいい子供が育つという環境もありますので、受け皿としての部活が、子供が大好きな部活があればいいし、人が多くなれば競争が生まれて、部活でもいろいろなことを学べて、仲間のきずなも深めるかと思えます。

委員長：ありがとうございます。それでは、M委員、この問題についてご発言をいただけたらありがたいと思います。

M委員：私は本当に保護者として、今子育て真っただ中で子供が2人います。先ほど子供の意見ということですが、もう子供の中でもこの計画を知っていて、もうすぐ誰々ちゃんと一緒になるのだと言って、喜んでいる感じです。私は地域ここに来て間もなく、この計画に対してすごく前向きで、すごくいいなと思っていたのですが、いろいろな人の話を聞くと、反対している方

がいて聞いたときに、何でだろうと思いました。やはり一緒になると、吸収されちゃうイメージがすごく強いのではないかなというふうに思いました。実際、私たちのところでは、反対している方もいないですが、他の地区の人に聞いたら、やはり何人が反対しているということを知りました。私たちの世代でも反対しているのだなということに最初びっくりしたところがあったのですが、申請を出して他の学校に通っていたり、実際に違う地域で申請がうまく通らなかったという話も聞いたので、何かそこはやはり平等にいろいろなところを選べるような選択方式がスムーズにあってもいいのではないかなと。結構保護者は考えているという話も聞きました。豊岡小を改築して、豊岡地区が地域の活性化ということで、こども園を豊岡にということで、私の中では平等のような気がして、すごくいい意見だなとは思ったのですが、やはり実際松尾にいる方は遠くなるという意見が、そこで出てしまうので、そこは私1人で考えていたのですが、小学校にスクールバスで送って、そのまま園児を迎えに行けば、何かコストも安いのではないかなと。実際活性化とか、地元愛とか、子供を大切にというKさんの意見と同じで、私も子供がどう思うかというのが一番考えなければいけないところではないかなとは思っています。私はすごいマンモス校で育ったので、本当に少ない地域がかわいそうに思ってしまうのです。でも、それはかわいそうという意見はよくないのですが、少ないところにもメリットがあるという話を聞いたときに、そういうこともあるのだなということも聞いたのです。他の保護者から聞いた話なのですが、何かスポーツのマラソン大会かな、その大会があったときに、小学校の代表で選ばれてきた子が、豊岡小だと人数が少ないので選ばれた人がかわいそうに見えたみたいなのです。あまりにも遅くなってしまうとかして、そういう部分では一緒になったほうが、頑張ろう精神ではないですが、良いのかなと考えます。部活の話もだんだん少なくなっているのは、また統合したことによって部活動も増えたりとかするのではないのでしょうか。コミュニティの話で、私の一意見ですが、小学校が、中学校がなくなってしまうことで人がなくなるのではないかというお話が結構出ているのですが、そうしたら違うことで、何かする、市の問題だと思うのです。何か違うことで活性化できるような方法も考えていくべきではないかなというふうに思います。私は、遠くから、遠くといっても千葉県内なのですが、引っ越してきて山武市の魅力はすごくあると思います。つい最近も、子ども大使のイベントをやっていたりとか、何か市をよくしていこうというのが、私は新しく来て思うところがあります。蓮沼地域で、地引網の体験のイベントがあったりとか、すごくそういうところでもいい市だなというふうに感じます。地元愛は結構あって、やはりおじいちゃん、おばあちゃんと接しているとすごくあるなというのは私も感じる場所があるのです。何か市を挙げて新しい住民が入ってくるような、山武市はいいところだということを、地域や市でアピールしていた方が良いのではないかと考えています。

委員長：ありがとうございます。大変ほめていただいて感謝します。

M委員：そういうところで、ちょっと長くなってしまいました。ちょっと素直な感想です。

委員長：ありがとうございます。最後に副委員長から、お願いします。

副委員長：城西国際大学は東金市にございますけれども、山武市とも密接な連携をさせていただいております。このような機会をいただいております。これまでこの適正化の問題等にも参加させていただいて、最初、やはりこここのところに出てきた学校規模の基準ということで、複式学級の取り扱いの問題と、それから、クラブ活動とか、お子さんたちがやはり自分に合ったいろいろな活動をしていくには、ある程度規模が必要であるということから出発してきていると思います。複式学級のデメリットというの也被われてきているわけです。一方で、統合をすることによって距離が伸びるというデメリットがあって、それと、東日本大震災を含めて、耐震化の問題、津波の問題ということがあわせて議論されてきたというふうに私は記憶しています。

そういう意味では、次の時代をつくる山武市の子供たちの将来を考えていくことからスタートしたというふうに私はしっかりと覚えているものの、この委員の方々がお集まりいただいて、やはり出てくる問題というのは、その地域の学校、育ってきた学校をなくしてしまってはどうするのだと。新しいコミュニティの中心をどうつくるかということがその各地域で突きつけられていると。そこについてなかなか議論をまとめていくことができない。それよりも前に、まず何でなくすのだ、何でこれが変わるのだというところを受けとめられない。数字を見て、自分たちが通った学校がこんなに児童が少なくなっちゃっているということを、数字で見て少しずつみんなが変わるということであったと思います。そういう中で、私が副委員長として言わせていただいてきたことは、ずっと繰り返しになるんですけども、統合の問題は、結論としては、もう最悪な状態でしかないわけです。地域にとって、日本全国少子化で、嫌なことを選択する、受け入れるための委員会ではなくて、子供たちは遠くに通わなきゃいけない、今の学校のままだと複式で十分な環境じゃないかもしれない、だから、しなきゃいけないという、今まで大人が人口を増やすことできなかった、活性化することできなかったことを、子供たちが地域の中で遠くまで学校通わなきゃいけないということを今突きつけられているのだと思います。そうする中で、大人は、教育委員会も役所のほうも、スクールバスを出しますとか、ということになれば、どういうふうな形でスクールバス出すのだという話になるし、それから、今まで自宅から歩いて行けたのが、自転車で何十分も通わなきゃいけないだとか、親が病気になったときどうするのだとか、もうそういった課題ですね、今やっていること全部見直さなきゃいけないというところで、この統合の問題というのが、反対意見も含めて、ずっと議論されてきていると思うのです。そういう中で、多分年数も重ねてきて、統合のあり方とか、議論の進め方についてはあるにしても、多分山武市がこれから進めなきゃいけないのは、統合して新しいことを、子供たちに何をするのかということ、多分議会のほうもそうですし、市の行政のほうも、そろそろそれについて新しいものを打ち出していかないと、なかなか厳しいのではないかなと。これは結局この統合した結果どうなるかといったら、さらに人口減少が進むかもしれないと、このままでいけば、それをどうするのだと、違う地域から来てくれる人をどうやって増やすんだということも考えた統合案に今後していく必要があるのではないかなというふうに思っています。そういう意味では、実は大学は今、成東高校との単位互換を進めるようにしていて、松尾高校とも進めるんですけども、そういう意味では、山武で学んだであろうお子さんたちとの関係というのも新しいベースに入ってきています。ちょっとした発想を新たにした取り組みというのが今後必要になってくるんじゃないかなというふうに思います。ただ、ご意見として出ているものは、全て私は正しいと思います。地域の人で長く住んでいけば、それは私だって同じように自分の通った学校がなくなるのは反対ですし、それが遠くまで通うことがどんなにいいことがあるのだと考えれば、それはもう、それはクエスチョンだらけです。今までやってきた部活動が新しい形になってと言われても、それも保証されるものでもないですし、新しくつくれというふうに突きつけられるわけですから、それは大変なことだと思うのです。そういったものも含めて、多分議論を深めていくことが必要じゃないかなと。それと、最後にもう1点だけ、統合した後にはやはり違う地域が、ご意見の中にもあったと思うんですけども、それがもっと違う形でいいものが提示されたら、人は万が一移動してしまうかもしれないということを考えながら、それこそ成田方面はちょっと増えているようなことも聞きますし、向こう側だと通う職場も変えずに変えられるとかいうこともあるようですから、そういったことに山武市がほかの自治体との中でも競争していくという状況を踏まえながら考えていくということが非常に今回の問題の難しいところじゃないかなというふうに思っています。大学という立場から言うと、もっとお子さんたちが統合しながら、地域にある資源として、大

学が何かできないかなというふうには考えているところでもあります。とりとめもない話かもしれませんが、私のほうからは以上です。

委員長：ありがとうございます。多分これはもう疑うべくもないことだろうと思いますけれども、今新しい社会への岐路にあって、そこに向かって、例えば、教育も、社会のあり方も、経済のあり方も、全く壊されてつくっていく、その難しさというものがある、多分そうなのだろうなという思いがあります。議論は全員の皆様からご意見をいただきました。どうします。教育委員会のほうから何かこのことについてコメントをいただきましょうか。

事務局：委員さんから特にないようですので、少し私からお話しさせてもらいますが、先ほど来ていますように、子供たちの教育環境をどうしていくかというところが一番、教育委員会としてはそこを最重点にして考えていかなければいけないと思っています。その中で、それぞれの説明会の中では、同じことを何度も言わせていただいているのですが、これからの子供たちに必要な学びというのは何かということなのですけれども、社会が大きく変化していく中で、グローバル化が進んでいくとか、どんどん少子化で人数が減っていくとか、IT技術がどんどん進展していくとか、いろいろな変化の中で、これからの子供たちに求められている知識、学力、必要な生きる力とも言われますが、そういった求められるものが、今までとは変わってきていると、それが一番大きいのです。ですから、我々が受けてきた教育、自分たちの経験をもとにだけでは、もう既に判断ができなくなってきてしまっています。だから、我々教育委員会としても、そのこれからの子供たちにどんな教育をしていかなきゃいけないか、何が求められているのかということをもとに考えて進めています。そこには、やはり先ほど言ったグローバル化とか、いろいろな問題に対応していくために、単なる知識を得て、今までと同じように学力を伸ばすだけではこれからの社会は生きていけないと感じています。なぜならば、IT技術がどんどん進展したり、今までのやっていた仕事がどんどんAIにとってかわられる。この先何十年かすると、今の子供たちが職につくころには、職業の何割かがもうなくなって、新たな仕事につかなきゃいけないということが研究から言われています。実際、今現在も、何十年前になかった仕事がたくさんあると思います。そういったことで、その学んだ知識をどういうふうにか、考え、発展させ、問題を見ながら解決させていかなきゃいけないか、その力を21世紀型スキルとか、いろいろな言い方されているのですけれども、そういったものをつけていかなきゃいけない。そのためには、今までと同じスタイルの教育では無理だなということが言われていて、どういうことが必要かといったら、グループ学習とか、今アクティブラーニングと言われている能動的な学習、今までは受け身でした。でも、これからはお互いに意見を交換したり、自分の考えをまとめて発表したり、そういう能動的な学習をどんどんしていかなないと、これからの時代は生きていけないと。では、それを我々が、今後の学校の中で展開するにはどうしたらいいのか。今言われているこれから子供たちに必要な学習を展開するためには、やはりある程度の規模を持たないと難しいということがあります。当然小規模の中でやるということのメリットはたくさんあるのです。例えば、学力を上げるということだったら、それこそきめ細やかに個別に指導してあげたほうが伸びるのはもう当然です。けれども、そういった学力も大事なのですけれども、これから先はもっと別の、その得た学力、知識をどう活用するかという部分に力を入れていかなきゃいけない。そうすると、やはり人との関わりというものを大事にしていかなきゃいけないのです。そのときに、グループ学習とか、今言った能動的な学習をするためには、ある程度の規模を持って、それができるような状況をつくっていかなきゃいけない。そういったことがあって、今私たちが今回お示ししている計画の中で基本的な部分、何を基準にするかというところでお示ししているところなのです。複式になるような小規模校は解消しなきゃいけないだろうとか、中学校における単学級、これは非常に運営上の問題が大き

くて、ただ単に子供の数が少ないというだけじゃなくて、そこに発生する教員の数の問題とか、その少ない教員の中でどうやっていくかという、すごく厳しい学校運営上の問題があって、それをそのまま維持したままそういう教育ができるかということを見ると、それもまた非常に難しい状況です。どういうふうにしていくか、山武市の子供たちをどう育てていくかというところに、我々は責任を持たなきゃいけない、そういったことを考えた上で、今回の案を出させていただいています。当然その中には、今出されてきた、例えば、他地区と一緒にになるときに子供たちがどんな不安を持っているとか、通学距離の問題とか、さまざまなことはこの議論をもう何年もやってきているわけなので、入ってきています。おそらく今回新たにこの会議に参加されて、いろいろ話を聞く中で、皆さんが持たれる不安とか、疑問とか、そういったもの、沢山あると思います。それらについては、時間をかけていけば、教育委員会としては十分に議論して考えた末に出している結論なので、きちんとお答えしていくことができると思います。ですので、このあり方の検討委員会の皆さんには、その地域、それぞれの地域から出た意見をもとに、山武市全体としてどういうことを考えていかなきゃいけないのか、地域の問題、学校の学力の問題とか、そういったものを含めてご意見をいただけるような形でぜひ進んでもらいたいというふうに思っております。その辺のところをぜひご理解をいただきながら今後とも進めてほしいと思います。よろしく申し上げます。

委員長：ありがとうございます。

(3)その他

今後のスケジュール等について

委員長：それでは、(3) その他の今後のスケジュールに移りたいと思います。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：それでは、山武市学校のあり方検討委員会の会議資料です。そちらの14ページ、A3のカラーの資料をごらんください。平成28年度とオレンジ色で書いてある部分です。こちらが今年度のスケジュールの案になります。28年度の真ん中のところに、①から⑩番まであります。このような流れで会議を行っていきたいと思います。本日は、③番、学校のあり方検討委員会、7月のところに書いてあります。③番、この表の上のほうに①からまた⑩番まであるのですが、それが会議の内容となっております。③は、上のほうを見ていただきますと、委員の委嘱、委員長、副委員長選出及び進捗状況の説明、意見聴取となっております。このように、上と下がリンクしております。あり方検討委員会の皆様については、本日委嘱をさせていただきました。この後、④番、⑥番、⑨番、8月、1月、3月と予定をさせていただいておりますが、今後状況によりまして会議の回数とか、また増やさせていただくこともあります。また、会議の開催月、8月、1月、3月となっておりますが、これも変更することがございますので、あらかじめご了承をいただきたいと思います。それでは、②番のところから、下の点線、赤く矢印がありますが、そちらを見ていただけますでしょうか。こちら基本計画策定とあります。平成28年8月となっております。事務局の希望とすれば、保護者の皆様にご理解をいただけるような状況であると判断できましたら(案)を取りたいと考えております。こちらのスケジュールでは8月となっておりますが、9月ごろ成案にできたらできればと思っております。また、成案になりましたら、9月の議会に報告をしたいと思っております。また、この基本計画が成案になりましたら、さらに具体的な計画として、実施計画の(案)を統合する、先ほどのリーフレットの中にもありました、1番から5番のような組み合わせの中で、統合の対象学校区ごとに実施計画の(案)というものを策定することになります。12月ごろまでに協議をしながら詰めていきたいと思っております。その間には、あり方の検討委員会の皆様にもご報告、

また、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

この表の中の⑤番のところですね、先ほど⑤番、ちょっとオレンジ色で対象地域、実施計画（案）の説明、議会とあります。これは実施計画の（案）ができ上がったら、あり方検討委員の皆様にもご意見をいただいて、実施計画の（案）ができ上がったところで、12月ごろ議会の全員協議会か何かでご報告できればと思っております。その後、市民の説明会を行い、また、学校のあり方検討委員会を行った後、こちらに書いていないのですけれども、⑨番と⑩番の間あたりに、教育委員会の3月定例会、そちらにおいて実施計画を成案にしたいなという考えでおります。そして、最後、3月に議会への進捗状況の説明をさせていただきたいというスケジュールで考えております。

年度末において非常にタイトになっておりますので、できればもうすこし前倒しをしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

委員長：ご苦労さまです。この今後のスケジュールについて、ご質問、ご意見ありましたらお受けいたしたいと存じます。

C委員：ただいまのスケジュールの8番の市民説明会ですけれども、これは実施計画ができたということで、こういうふうに進めますというものを説明というか、紹介する場になるのですか。

事務局：はい、そうです。実施計画の（案）ができ上がった状態で説明に上がりたいと思います。それで、先ほどのリーフレットなのですが、この一番後ろのところなのですけれども、こちらに⑥番基本計画の進め方ということで、1番実施計画の策定とあります。そして、この実施計画の中には内容として対象校とか、計画期間、また、いろいろ内容が書かれておりますので、実施計画はこういうものがこの中に入っていきます。それを市民の皆様、統合する学校区ごとに説明をして歩きたいと思っております。

委員長：ほぼこの案で特別意見も出ていなかったようですし、そのままいくと思うのですが、そうすると、（案）をとったものが提示されるだけみたいな格好になるのでしょうか。

事務局：こちらは基本計画の（案）でございますので、この（案）がとれた場合に、今度は実施計画をつくります。基本計画と別のものの実施計画というものをつくります。これは一度（案）というもので、皆さんにお話、説明をさせていただきました。これが基本計画なのですけれども、これの（案）が取れたときに、今度は新しく別の実施計画というものをつくります。その実施計画の内容が、このリーフレットの一番後ろに書いてある内容、6番の内容のものを盛り込んだもので実施計画というものをつくります。その実施計画の案に基づいて、また学校に説明に、保護者の方に説明に伺いたいと思っております。

委員長：実施計画は実施計画（案）ですね。

事務局：そうです。実施計画（案）としてご説明に上がりたいと思っております。

委員長：実施計画となると何年になりますか。

事務局：統合する前の2年間になります。

委員長：リーフレットにありますけれども、一番上の豊岡と松尾の場合でしたら、平成29年度から統合準備委員会を立ち上げますので、28年度に実施計画策定になりますね。

事務局：そうです。

委員長：この1年間ですね。

事務局：そうです。そこで実施計画（案）をつくって、それを皆様に説明をして歩きます。その計画の内容というのが、⑥番のところに書いてあるものです。

委員長：実施計画というのは個別につくるということでしょう。

事務局：そうです。実施計画というのは統合する学校毎に個別につくります。ですから、山武中学校と山武南中学校が統合する場合には、その2つの統合のためだけの実施計画をつくります。

C委員：そこで初めて計画がスタートするので、その後、そうですね、議会を通過して、完全に決まってから専門部会等の話が初めて始まるということですよ。

事務局：そうです。

C委員：わかりました。

委員長：もう1度、事務局で説明をお願いします。

事務局：それでは、具体的に、豊岡小と松尾小の場合を例にとります。今、基本計画の中では、平成28年度に実施計画策定となっております。ですので、豊岡小学校と松尾小学校の2校による実施計画をつくります。この実施計画の中には、⑥番にある内容、例えば、学校名とか、何というのですかね、スクールバスの運行とか、学校の制服とか、そういうことを決めるためのものを折り込んだ計画の案をつくります。

C委員：統合準備専門部会というのでしょうか。

事務局：はい、そうです。そのための計画をつくります。それを、その案をもって皆様に説明に行きます。豊岡小と松尾小に説明に上がります。

委員長：よろしいでしょうか。

C委員：それは、29年度からなのですか。

事務局：28年度に実施計画を策定、今年度実施計画を策定して、(案)を策定します。そして、この⑧番にある3月に学校に説明に上がります。例えば、豊岡小と松尾小であれば、今年度実施計画(案)をつくって、市民の皆様に、保護者の方に説明に上がります。まだ(案)の状態です。その後、あり方検討委員会の皆様にもう一度お話をし、最後に3月に教育委員会の定例会で成案にさせていただくという考えです。

委員長：よろしいでしょうか。

C委員：はい。

委員長：どうぞ。

E委員：今スケジュールの、実施計画のことでありましたが、昨年の4月以降からのこのあり方検討委員会に私は何度も出させていただきました。それで、豊岡小と松尾小の統合については賛成です。そして、校舎を新たに建てるということ、松尾小を新たに建てるということは、現時点では反対です。それから、これに伴って、豊岡小をまつおこども園で開園するということについても反対です。これはもう再三申し上げましたけれども、忙しいお母さん方が送ってくるこの豊岡小学校へのまつおこども園の開園ということになりますと、ゲリラ豪雨とか台風等で川が氾濫して、成東方面からしか入って来ることができない道の経路があるからであります。小学校であれば、スクールバスという対応になりますので、これはよろしいのではないかと思います。そういう意味で、当面はこの豊岡小と松尾小の場合は豊岡小を使って、財政的にも軽減できる形でやっていただきたいというのが、私の意見です。ぜひこの意見を考えていただきたいと再三申し上げます。それで、まつおこども園について、どうするんだということにつきましては、これは保護者の皆さんの意見をよく吸い上げていただいて、そして、これはアンケート調査もやってらっしゃらないと思いますし、具体的な一歩踏み込んだ、子供さんを育てる子育ての中での、本当に利便性等を踏まえた中での場所ということも考えていただいて、この実施計画に入るといことは大変なことですので、このスケジュールどおりにいくともう数カ月もない、何カ月もない中でのことになってしまっていて、このままの今の計画の(案)が実施計画ということで載ってきて、私としては困るなという思いで発言させていただきました。よろしくをお願いします。

委員長：ありがとうございます。

事務局：当然、今後の検討の中には十分そういったご意見も含めて考えてはいくようにはなります。

委員長：よろしくお願いします。それでいいですか、E委員。

E委員：はい。

委員長：どうぞ。

K委員：中学校の検討会の件なのですけれども、これは山武中と山武南中で、平成31年開校なんです。ということは、現小学校4年生の子供たちが入学する、あと、4年生、5年生、6年生がかかわってくることでございます。ということは、現在の中学校に説明も大事ですけれども、今度上がってくる子供たちにも説明が大事だと思うのです。そのときには呼んでもらえるのでしょうか。その辺をちょっと、私のところ中学校もいるので、おそらくその情報が入るので私が出ますけれども、まだ中学校に行かれていない4年生、5年生たちのお子さんたちがいる家庭もあるので、できれば小学校にも一応配布してもらって、中学校の31年度からの開校に関してということでやっていただけると助かります。

委員長：ありがとうございます。先ほどからこのことについては教育委員会がまた地元へ出て説明をするということでもありますから、なかなか難しい面、出席者が多く来てくれるようなことについて、どうぞそれぞれの地区の委員さんも心を砕いていただくということも私のほうからお願いをしたいと思いますし、教育委員会についても、さまざまな工夫を考えて、より充実した説明会ができるようにご努力をお願いしたいと思います。あと、ほかにご意見がございますでしょうか。よろしいですか。それでは、その他で何かあります、事務局のほうでは。

事務局：ありません。

委員長：ありません。これで長い時間をかけてご議論いただいたわけでもありますけれども、最後に何か意見を言っておきたいということがありましたらお受けをいたしたいと存じます。よろしいでしょうか。それでは、長い時間にわたりまして、私の不手際で30分も予定を超えてしまいました。しかし、かなり難しい問題でありましたので、時間をとらせていただきました。本日は長い時間にわたりまして、ご議論を賜りありがとうございます。心から御礼を申し上げます。御苦労さまでした。

7 閉会 午後4時13分